

❖ JR東日本エコ活動

ポトムアップの環境活動をめざして

これまでJR東日本では、環境への負荷低減に向けてさまざまな取り組みを展開してきました。さらに環境保全活動の深度化を図るには、約6万人の社員一人ひとりが日頃から環境への意識を高め活動する取り組みが不可欠との認識から、その方法を模索してきました。そして2005年2月、八王子支社の7機関で試行を開始したのが、「JR東日本エコ活動」です。



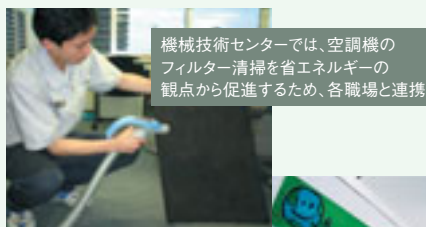
環境保全へのアイデアを募るために、設置された「エコボックス」

■ エコ活動を開始した7モデル機関と主な取り組み

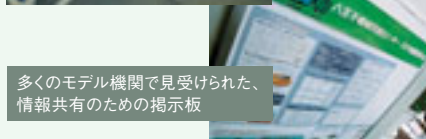
モデル機関	社員数	主な取り組み
立川駅	86	●エコロジー日誌回覧記入 ●立川駅エコマークの作成 等
日野駅	12	●エコ活動進捗状況<Before and After>の掲示 ●マイ箸、エコバッグの活用 等
立川車掌区	195	●節電啓発シールの照明スイッチへの貼付 ●(株)東日本環境アクセス社員との意見交換会 等
三鷹電車区	222	●車両洗浄装置を洗剤不使用のものへ取り替え ●エコ新聞、エコ掲示板の利用開始 等
八王子保線技術センター	65	●除草剤使用から除草作業への切り替え ●工用材料の延命化と再利用の促進 等
八王子機械技術センター	13	●液晶温度計シールの配布 ●空調機フィルター清掃の定期的実施の促進 等
八王子電力技術センター	93	●色分けした照明スイッチの消灯範囲図の作成 ●エコ担当の定期交代による活動の定着化促進 等

「業務」「職場生活」と「環境保全」の調和

もちろん、環境教育など意識を高める活動はこれまでも行ってきましたが、「エコ活動」では、行動目標を設定し、行動を実施、一年ごとに振り返り、さらに活動を活性化していく、というPDCAサイクルを、各職場レベルで実行することにその特色があります。また活動内容は、「業務」および「職場生活」に「環境保全」の考え方を具体的に取り入れることをめざし、選任されたエコ活動推進員を中心に職場全員でアイデアを出し合って決定します。



機械技術センターでは、空調機のフィルター清掃を省エネルギーの観点から促進するため、各職場と連携



多くのモデル機関で見受けられた、情報共有のための掲示板



後部に「アイドリングストップ」シールを貼った事業車

モデルケースにおける取り組み

八王子支社での試行は、たった5カ月間という期間であったにも関わらず、社員200人規模の職場から15人程度の職場まで、積極的な社員の参画を得られるという結果を残しました。

内容も、節電・節水を呼びかけるシール、液晶温度計シールの貼り付け、マイ箸・買物袋の使用といった身近なことから、日誌の回覧や掲示板、勉強会などによる情報共有の取り組み、さらには車両消耗品の寿命延伸や、除草を手作業で行うなど本業における取り組みまで、幅広い展開を見ることができました。

今後の展開

これらのモデルケースを元にした冊子『JR東日本エコ活動一現場第一線における環境保全活動』を社内配布し、2008年度までに全社的な取り組みとして広げていく予定です。

